

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 536 号	氏名	荒木 良介
学位審査委員	主 査	中嶋 幹郎	
	副 査	塚元 和弘	
	副 査	西田 孝洋	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、臨床での点眼液の適正使用に資する新たな医薬品情報を構築するために、点眼液の角膜障害性を評価・予測する方法としての電気生理学的手法の有用性を検討し、さらに点眼液使用時の角膜障害性を低減する点眼療法を検討したもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 本研究では、臨床で汎用されている複数の点眼液を選び、その家兎摘出角膜に対する経上皮電気抵抗値 (TER) に及ぼす影響を解析し、その結果を細胞毒性試験により得られた結果と関連付けることで、点眼液の角膜障害性評価法としての電気生理学的手法の有用性を検討し、さらに角膜障害性の低減を目的とした処方設計や製剤設計を検討したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、ヒト涙液のターンオーバーを再現した電気生理学的手法で TER を測定することにより様々な点眼液の角膜障害性を評価・予測でき、ヒアルロン酸ナトリウム (HA) 点眼液の前処置および HA を配合した点眼液の製剤化により点眼液の角膜障害性を低減できることを明らかにした。このことは、今後、角膜障害性の低減を目的とした点眼液の選択や適正使用における医薬品情報として活用が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は、眼科薬物療法に関する基礎研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (薬学) の学位に値するものと判断した。</p>			